

ネット越しに流星観測

発端は外出自粛要請

2021年のゴールデンウィークのころ、当時はまだ新型コロナウイルス感染症の拡大防止として、人との接触を減らすことや外出自粛がまだ強く言われていました。毎年ゴールデンウィークのころには、みずがめ座 η 流星群の活動があるので、月が無い年は科学館の友の会の会員さんらにも声をかけて、一緒に流星観測をしていたのですが、この年は、ちょっと人を誘いにくいなあ、と考えていたところでした。

その頃、ハワイのマウナケア山のすばる望遠鏡のところに、高感度カメラが設置されて星空(だけでなく昼間の空も)のネット中継が行われるようになっていました。また、日本国内にも何か所か星空ライブカメラが稼働し、自宅にいてもネット中継で星空がみられるような環境ができてきていました。奈良県内にもライブカメラが一つ稼働していました。

また、友の会の例会などもZoomを使って開催されるようになって、Zoomなどのネット会議システムも世の中に普及してきていたところでした。

流星観測は一人で黙々と観測してもいいのですが、何人もで集まってわいわいと観測した方が楽しいので、この年のみずがめ座 η 流星群は、深夜にハワイマウナケアのライブカメラの中継を見て、明け方には国内のライブカメラを見るか実際に空を見るか、いずれにしてもZoomで音声をつないで、それぞれが別の場所にいっても、わいわいと会話できる環境を作って、流星を見よう、という風にしました。やってみたところ、

これがなかなか楽しく、その後も流星群の機会をとらえて、おしゃべりしながら(それぞれ違う場所にいながら)流星観測をするということも続けてみました。



国立天文台ハワイ観測所のライブカメラ映像。各国の望遠鏡のシルエットも見える。©国立天文台ハワイ観測所・朝日新聞

自前で星空を配信

その後、科学館でも、星空を中継(送出)できる高感度カメラを購入し、「金曜星空トーク」などの科学館のイベントでも使用しました。流星の撮影についても、テストも兼ねて、自分が流星観測をする傍らにカメラを設置して、自分が観察している星空を配信しつつ、音声を共有しておしゃべりしながら流星観測をする、ということを始めました。撮影に使うレンズの選択や、動画の速度などを試行錯誤しながら、最近ではいい感じのバランスがだんだんつかめて来たように思います。もちろん観察する場所にネット環境が必要なので、携帯電話の回線を通じて映像を送るのですが、場所によっては回線が細く、動画の画質が低くなってしまふ、ということもありました。

しかし、実際に自分が見ている星空をカメラで録画できるようになって、自分の流星の明るさの判定が、どのくらいブレるものなのか(本当は明るい流星を見たのに暗く評価したり、逆に暗い流星を見たときに明るく評価してしまうようなブレ)後で録画をチェックできるようになったのは面白いなあと感じます。

また、月夜でも撮影時の設定で月明かりの影響を低く抑えることもできるようになってきたので、今後は月があつて観察条件の悪い流星群も、観測対象に入れていけるのかなと考えています。もちろん、画面越しに流星を見るよりも、実際の空で流星を見るほうが断然美しいのですが、流星群の日は会社があるので一晩中出かけて観測することは無理、という人でも、夜中に短時間だけ参加することはできる、という人もいらっしゃるし、人数が集まってわいわいと楽しめるネット越しの流星観測にも良さがあるのかと考えています。



筆者撮影のふたご座流星群の観測映像

飯山 青海(科学館学芸員)